

地域林政対談 イン沖縄

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第八弾は、宮城久和国頭村長、伊集盛久東村長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



ヤンバルクイナ



ヤンバルテナガコガネ

多種多様な動植物が生息する豊かな森林がある〔国頭村長〕

国頭村は村の85%が森林で、イタジイ等の広葉樹で構成され、多種多様な動植物が生息する豊かな森林である。村有林の人工林ではリュウキュウマツやイスノキ等が造林されている。

貴重な森林をどのように活用していくかということ、村独自で森林の活用指針を作成し、残す森林・守る森林・活用する森林・再生する森林にゾーニングし、造林箇所や伐採箇所等を選定している。

国頭村森林組合では57名を雇用しており、年間5〜10ヘクタール程度を伐採している。伐採した木材は、民間、森林組合、村が出資して設立した国頭きのこ園において、ブナシメジの菌床栽培用のおが粉として利用している。また、国頭村では畜産が盛んであり、畜舎の敷料としておが粉を利用し、衛生面や作業効率の向上に役立っている。

木材利用が落ち込んでいるので、木の良さを伝え、木材の需要拡大を図るため、木育事業を実施している。ウラジロエノキを使って、小学校入学時に学習机を親と一緒に組み立ててもらい、可動式で高さが変えられるので6年間使ってもらって、卒業時に

プレゼントしている。また、「ウツドスタート事業」として、赤ちゃんの頃から木に馴染んでもらうよう、木のおもちゃを出産祝いとしてプレゼントしている。さらに、木の良さを感じて木に触れてもらうよう、「やんばる森のおもちゃ美術館」もオープンさせている。

森林を活用した活動として、ネイチャーツアー、エコツーリズム、森林セラピーツアーも推進しており、森林を五感で感じながら癒やし効果を味わってもらっている。

木材加工技術を高め木材を活かした特産品を作っていくため、国の地方創生事業を活用して、木工職人養成講座を作り、これまでに3人の移住者に来てもらっている。



宮城久和 国頭村長

県内唯一の木造の村立保育所を整備〔東村長〕

東村は村の72%が森林である。村では、これまでに特用林産物販売施設、キャンプ場、林間広場の整備を実施してきたところである。また、村有林においては、クヌギの新植や保育事業として施肥、下刈りを実施しているところである。平成22年度には、国庫補助事業を活用して、木造平屋建ての村立保育所を整備した。県内唯一の木造の保育所であり、年間3〜4千人の視察者が訪れている。林業関係の今後の予定として、シイタケの生産・加工施設の整備を予定しており、現在、県と調整中である。



伊集盛久 東村長

● やんばるの貴重な自然をどう活かしていくか

沖縄北部地域の森林には貴重な森林生態系が残されており、世界自然遺産の登録に向けて検討が進められているところです。

九州森林管理局計画課生態系管理指導官 昨年

返還された沖縄北部訓練場の国有林について、現在は沖縄防衛局への貸付地となっているが、支障除去措置の実施後、今年中にも林野庁に戻ってくる見込み。この地域には貴重な自然が残されており、森林生態系保護地域の設定について、今後検討していく予定である。

国頭村長 返還されるヘリパッドの跡地について、その活用策として、休憩所を設置することも考えられるのではないかと。また、村内の与那覇岳について、頂上まで登っても周りが見渡せず達成感がない。例えばやぐらを作るなど展望できるような施設を作りたいと考えている。

九州森林管理局長 返還された沖縄北部訓練場の国有林の取り扱いについては、地元からの要望をあげていただいて、できることできないことも含めて幅広く意見交換させてもらえればと思う。

東村長 東村では沖縄北部森林組合と連携しながら森林に関する事業を進めている。世界自然遺産地域の登録を見据えて、森林をどう活用するか、いろいろ検討しているところである。

大宜味村と東村にまたがる標高300m程度の玉辻山があるが、この玉辻山に登れる遊歩道を整備できないか。また、福地ダムの上には自然林の巨木があるが、そこを見るための遊歩道を作ることができないか。さらには、高江地域周辺にゲストセンターができないか。教育型観光、民泊事業を推進しており、観光客をさらに誘導して、地域の経済活性化につなげていこうと思っている。

局長 保全と利用を両立させていくことが重要である。今後、森林生態系保護地域の検討に当たっては、ゾーニングしていくことになるが、守るべきコアな自然生態系は人も立ち入らないような区域にしつつ、周辺のバッファエリアについては、地域の関係者と連携して、多くの人に利用してもらうルートを作るなどの検討が必

要である。環境省等ともよく相談して、地域のために考えるように考えていきたい。

東村長 山に入って2〜3時間歩くとウラジロガシ、シイ、イジュなどの巨木がある。これを見て感動を与えて、森林浴、自然体験をしてもらうことによって、やんばるのよさが活かせると思う。

局長 白神山地、小笠原諸島、屋久島などでは昔から使われていたルートなどの範囲で地元関係者と協議しながら活用している。生態系に影響を与えない範囲で考えていきたい。

東村長 やんばるの貴重な自然は、大宜味村、東村、国頭村の3村にしかない。この自然をどう活かしていくかが今後の大きな課題だと思う。**局長** 昨日は野生のヤンバルクイナに遭遇した。アカシヨウビン、リュウキュウヤマガメも見た。そういう貴重な生物が住んでいる貴重な地域なので、みんなで上手に守って、上手に他の人にも見てもらえるよう、環境省、県、市町村、地元関係者と調整しながら、しっかりと取り組んでいきたい。



やんばるの森

● 環境と調和した「やんばる型森林業」の推進を

貴重な自然については世界自然遺産として守っていく一方、林業生産活動を通じた地域の振興も必要です。

国頭村長 国頭村森林組合では57名の職員を雇用し、平成28年度は9ヘクタールの伐採をしている。今回、国立公園に指定され、来年の夏に世界自然遺産に登録されると、林業しにくくなることが予想されると、林業を生業としてやっていけるように、返還された北部訓練場の国有林を活用できないか。守るべきところと活用すべきところがあると思う。

東村長 東村内では林業を営む方は数少なく、松くい虫の被害が発生した際に、村が業者に委託し、被害木の処理を行っている程度である。

局長 返還された北部訓練場の国有林において、森林生態系保護地域をどのように設定していくのか、今後、ご意見をいただきながら、保全と利用という観点で意見交換していきたい。

沖縄県森林管理課長 「やんばる型森林業の推進」の中で、環境と調和した伐採手法として、斜面の尾根と沢の中間を伐るという考え方を示している。沢筋は小動物がいて、尾根筋は風当たりが強くて枯れてしまう。また、大面積ではなく、小面積をいくつかに分けて、年間10ヘクタール程度を伐採していく方針である。

局長 きめ細かいゾーニングをしながら、溪畔林や尾根筋を伐らないとか、関係者で議論していきたい。地域に理解いただいて山の利用を進めていく必要がある。地域のために何ができるか、考えていきたい。



やんばる型森林業実証実験地の現地視察



ウラジロエノキを活用した可動式の学習机(国頭村)

地域林政対談 イン 沖縄

平成29年5月16日(火)10:00～11:30

国頭村民ふれあいセンター

出席者(敬称略)

○ 市町村長

宮城 久和 国頭村長
伊集 盛久 東村長

○ 沖縄県

崎 洋一 森林管理課長

○ 林野庁九州森林管理局

池田 直弥 九州森林管理局長
清水 俊二 沖縄森林管理署長
田中 和利 九州森林管理局計画課 生態系管理指導官
勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

